近森リハビリテーション病院　看護部

看護部長　松永　智香

看護部目標

近森リハビリテーション病院の目標「変革を迫られる前に変革せよ」

近森会 G 看護部の目標「 医療 DX で業務をスマートに、生活にゆとりを」

上記目標に対し以下の実践を行った。

①眠りスキャンのデモ 2024 年度からの継続 全病棟終了し、評価は高かったが予算の都合で購入不可

②機械浴の購入（NASVA 活用）マニュアル作成から実践 PDCA

③5 月 1 日～4 階病棟 25 床 入院基本料Ⅲ～Ⅰへ

看護職 1 名と看護補助者 1 名の 2 名夜勤から看護職 2 名の夜勤になるため、看護師を 5 名増。そのため、人件費が高騰し、入院基本料は上がったが、収益と支出がほぼ同等となった。

人事と組織貢献

4 月に精神科認定看護師である萩原シニア師長が心療センターより異動してきた。認知症ケア加算Ⅲ～Ⅱに向上（14 日以内 44 点→112 点に。15 日以上 10 点→28 点に。）後半は、身体拘束最少化委員会の設立および認知症ケア加算Ⅰ（14 日以内 180 点。15 日以上 34 点）を申請するための準備期間とした。また、障害者雇用枠の方々に対し、個別的な対応を実践した。

7 月には入退院支援専従看護師として上原師長が入職した。これまで 20 年ほど、岡部シニア師長が地域連携室として、院内外の連携、病床コントロール等を実践していたが、上原師長が加わることにより連携体制が取りやすくなった。医師の担当も院外連携と院内整形外科は院長、脳外科は日浦医師、ER は中嶋医師となり、機能的になり、対応しやすくなっている。

師長・主任の異動は以下の通り。（4 月 1 日）

看護師長名	前部署	現部署	1 月 1 日付け	
和田絵美	3 階西・東	4 階		
武田真弥	4 階	5 階西		
南　和芳		5 階東		
岡本真由美	特定認定受講	3 階東		
武市さおり	5 階西	3 階西		
梅木まき		6 階西東	医療安全管理室	
岡部美枝	地域連携室		6 階西東	
川村加恵	3 階西	6 階西		
川村しのぶ	6 階西	3 階西		
岩佐和佳子	5 階西	4 階西		
岡林拓也	4 階西	5 階西		

入職者：新卒新採用看護職 1 名　退職者：2 名（結婚のため県外への転居・職種転換）退職率3％

異動：オルソに 2 名（1 月 1 日）院内留学 HCU に 1 名（1 月 1 日～3 月末）

業務

近森会に看護 DX 部が構築され、そのメンバーを副看護部長が兼任し、リハビリテーション病院に新たな風を吹かせてくれた。DX のみならず、システム上のボトルネックの解消なども実践した。別途報告。

教育

新たな回復期リハビリテーション認定看護師が 1 名、認定看護管理者の更新、高知大学の感染看護特定認定過程に 1 名受講した。他には、学会発表や院内の事例検討会が積極的に実践された。教育担当シニア師長より、別途報告する。

今後の課題

VUCA の時代（Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の 4 つの要素）と言われる。柔軟な対応力、変化への適応力、問題解決能力、学習意欲、リーダーシップ、デジタルスキルの習得など VUCA 時代は、企業だけでなく、個人にとっても、変化に対応し、成長していくための重要な時代だと言われている。近森会グループと近森リハビリテーション病院の安定した経営と回復期リハビリテーション看護のサービス質向上を目指し、2025 年度もチーム一丸となって頑張っていく予定である。

近森リハビリテーション病院　看護部　医療安全委員会

副看護部長　岡村　奈保

はじめに

患者に信頼される医療サービスの提供と医療の質向上を求めていくことを医療安全委員会の基本姿勢として活動を行っている。基本姿勢に基づき医療安全活動の必要性・重要性を院内の全部署及び全職員に周知徹底し院内共通の最重要課題として取り組みを行っている。

活動内容

- インシデント・アクシデント事例の共有、および医療安全カンファレンスの開催によりインシデント・アクシデント要因の振り返りを行い同じ事故または、重大事故につながらないための情報発信を行っている。
- 研修会の開催により、医療安全への意識向上を行っている。

（研修会内容）

＊2025 年 9 月『トラブルを未然に防ぐカルテの書き方』医療安全と法的リスクについて

＊2026 年 2 月『転倒・転落防止』2025 年の転倒状況、転倒に関連するアクシデント例の紹介、自立した患者にも転倒リスクがあることを知ってもらう

まとめ

2025 年度医療安全目標を『転倒による損傷(骨折)が発生しない』『インシデント報告件数を増やす』を挙げ取り組んだ。

転倒率※1：転倒・転落発生件数　×1000（‰）

のべ入院患者数

転倒率は、昨年より若干減少している。『転倒による損傷(骨折)が発生しない』に関しては、転倒によるアクシデントが 6 件発生。移動・移乗に介助を必要とする患者ではスタッフの介入があるため、骨折事故は発生していない。本年度は、歩行が自立となった患者が単独行動で転倒や躓くことにより骨折を受傷している。事例の共有と研修会の開催により自立している患者への生活指導を積極的に行うように働きかけている。

	2025 年	2024 年	全国平均：日本病院会 2021 年データ
転倒率※1	3.72‰	4.08‰	2.82‰

『インシデント報告件数を増やす』に関しては、昨年の報告件数 721 件を若干上回り 739 件であった。軽微な影響度レベルの報告をセーフティスタッフで内容確認し GOOD JOB 報告を選定した。インシデント内容の共有と報告報告件数増加を目指して実施した。今後も重大事故を未然に防ぐためにインシデント報告を増やすように広報する。

安静度を逸脱したリハの実施が目立っている。急性期病院から異動や中途採用されたスタッフによる報告が目立った。2026 年の課題としたい。

2026 年度に向けて

- 転倒によるアクシデント減少
- インシデント報告件数増加
- 患者情報の確認と共有で安全な医療が提供できる

積極的なインシデント報告ができるように各部と連携し報告数の増加と分析により効果的な対策が立てれるようにする。

近森リハビリテーション病院　看護部　感染対策委員会

感染管理担当看護師長　岡本　真由美

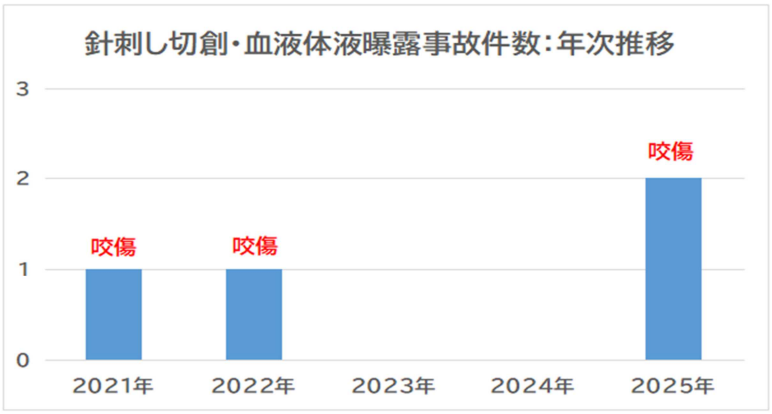
委員会活動及び ICT の取り組み

・感染防止対策加算 1 にかかる医療機関との年 4 回の院内感染対策に関するカンファレンスの実施（ICT 全員）。
・ICT ラウンドの実施（各病棟 1 回/週　病棟以外は 1 回/月）を行い、各部署に報告及び改善案の提出義務化。
・院内抗菌薬の適正使用の監視（使用理由、腎機能、細菌培養、ＴＤＭの結果など）。
・週報の配信（医局員、各所属長や責任者、主任、リンクスタッフなどに配信して下部まで伝達）。内容は、細菌培養での検査結果から注意すべき感染症者の報告や抗菌薬の使用状況、職員及び託児所や近森会グループ内および県下の感染症情報、感染対策への注意喚起やトピックスなど。
・感染対策マニュアルの追加および改訂。
・年 2 回全職種対象感染対策セミナーの開催（テーマは、上期：手指衛生について　下期：感染ラウンドについて　）
・月別耐性菌発生患者の把握（MRSA、MSSA、P.aeruginosa、ESBL、MDRP、PRSP、BLNAR、CD-T、メタロβラクタマーゼ産生菌、AmpC 産生菌、CRE、VRE など）。
・手指衛生サーベイランス（速乾性手指消毒剤の使用状況、手指衛生の直接観察）。
・リンクスタッフによる職場巡視。
・洗浄、消毒、滅菌、リネン管理、感染廃棄物、感染対策物品の検討。
・各部署やリンクスタッフからの相談対応。
・院外研修参加
・新型コロナウイルス感染症対応

針刺し切創、血液体液曝露事故について（グラフ１）

針刺し切創、血液体液曝露事故については、2022 年以降発生なく経過していたが、2025 年咬傷による曝露事故が 2 件発生した。過去 5 年間針刺しによる曝露事故は発生していないが、本院での針刺し事故の事例を当院でも周知し、注意喚起は継続して実施している。今後の課題として当院では咬傷でも血液体液曝露事故の方が多いため、咬傷事故防止の啓蒙と発生時の対応の周知にも取り組んでいく。

ｸﾞﾗﾌ１

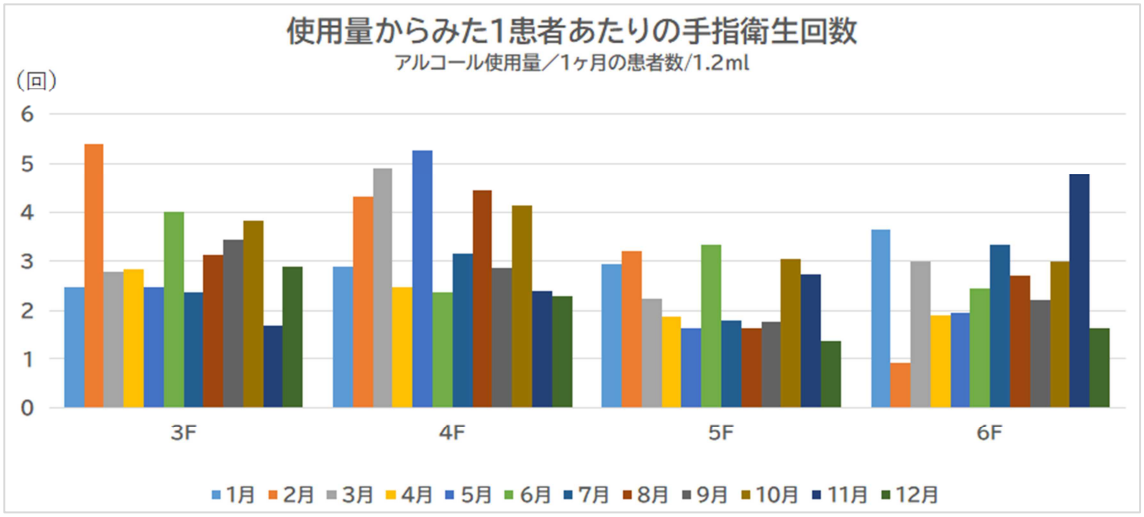


手指衛生について（グラフ２・３）

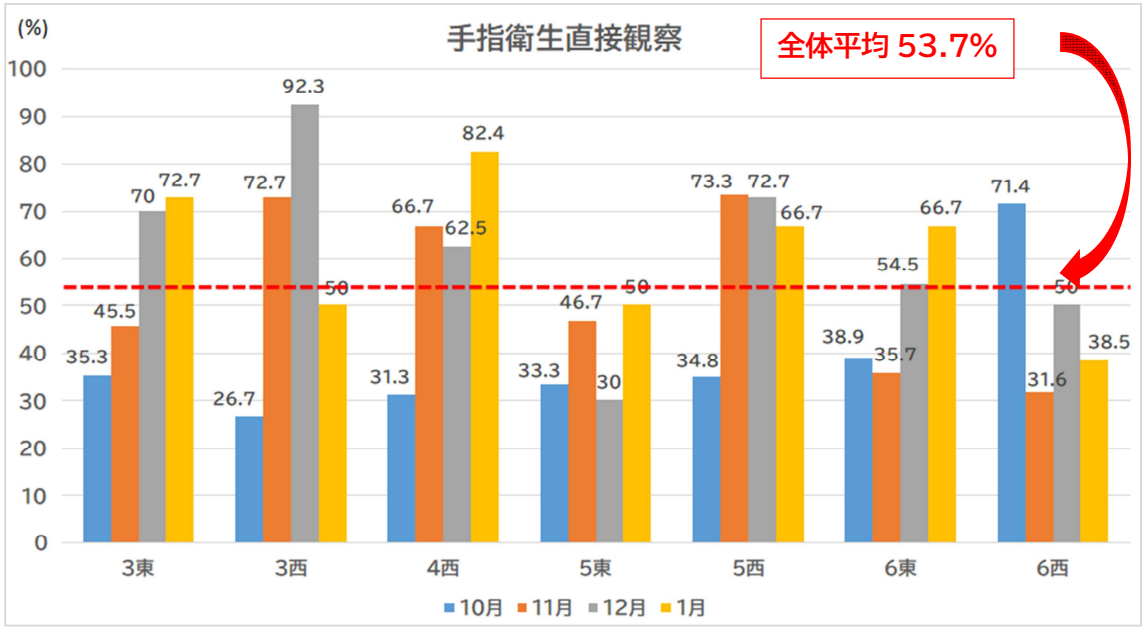
手指衛生は、速乾性手指消毒剤の使用量のサーベイランスと手指衛生の直接観察法を実施した。手指消毒剤の使用量から１患者あたりの手指衛生回数を算出した。年間を通して手指衛生回数が少ない部署もあり、直接観察と併せて実施状況を確認し指導および啓蒙を継続していく。

手指衛生の直接観察法は 10 月から 1 月で実施した。多職種の手指衛生場面が観察できる配膳時に観察している。手指衛生が定着しているスタッフも一定数確認できた。一方で手指衛生が全く意識ができていないスタッフがいることもわかってきた。「清潔操作の前の手指衛生」については、現場での OJT として手指衛生を含めた技術指導が不十分なのではないかという課題も明らかとなった。またセラピストからなるリンクスタッフとリンクナースの育成の一環として、手指衛生の直接観察法を経験してもらう取り組みを実施した。その結果、「直接観察を実施することで自分自身の意識は変わった。観察した結果をスタッフにフィードバックできていないので今後はスタッフへのフィードバックもしていきたい。」という意識の変化が見られた。

ｸﾞﾗﾌ 2



ｸﾞﾗﾌ 3

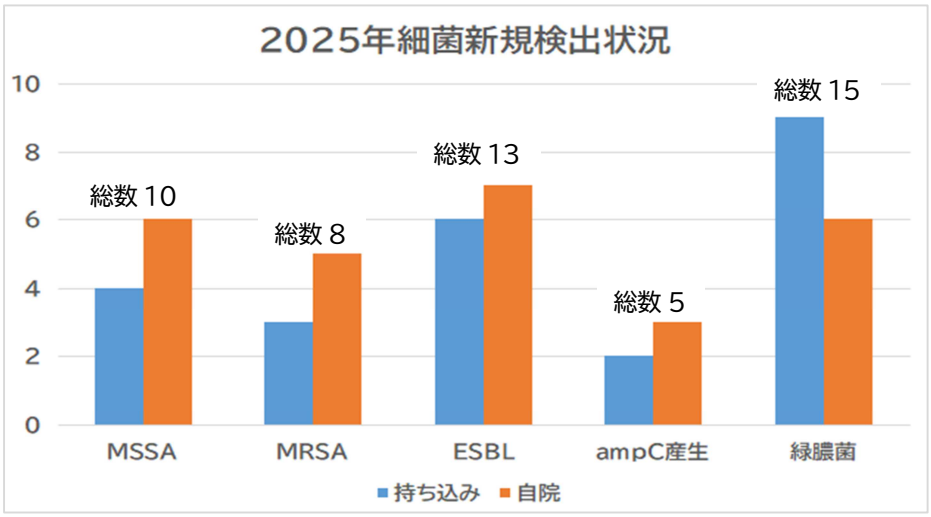


細菌の検出について

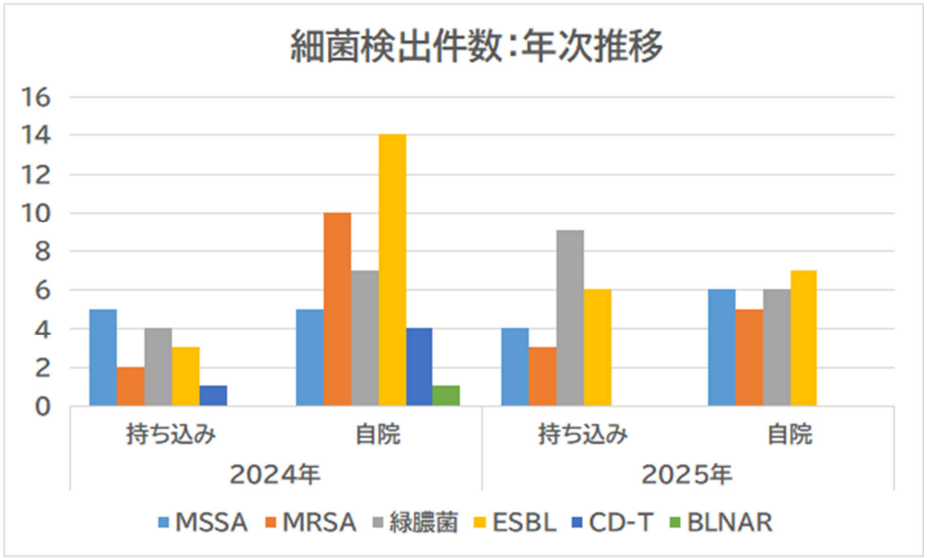
当院で検出される主要な細菌および耐性菌の検出状況としては、2025 年は緑膿菌が多く、持ち込みが約 6 割と多かった。（グラフ４）

2024 年との比較では、グラフ５の検出の総数としては、2024 年 49 件、2025 年 44 件と大差はなかったが、2024 年に比べて自院発生よりも持ち込みの件数が増えていた。当院では、ほぼすべての患者が医療機関からの入院であり、何らかの医療関連の細菌に曝露されていることを常に意識し、標準予防策を徹底していく必要がある。（グラフ６）

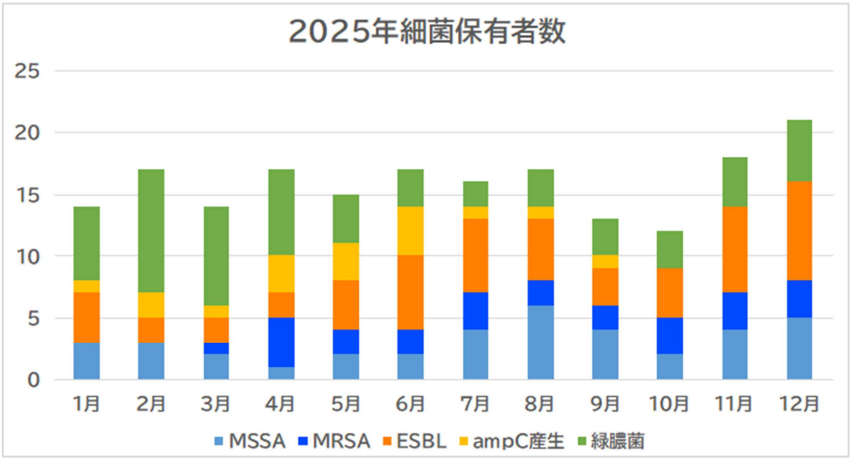
ｸﾞﾗﾌ4



ｸﾞﾗﾌ5



ｸﾞﾗﾌ6



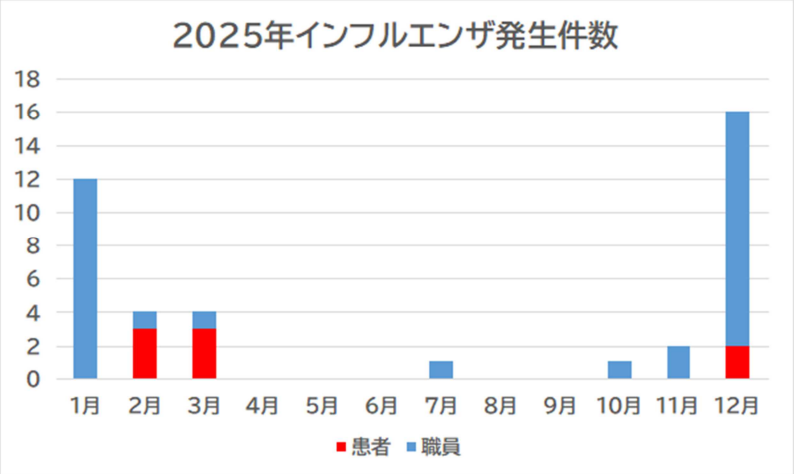
疥癬・結核について

2025 年も疥癬・結核の発生はなかった。

インフルエンザについて（グラフ７）

インフルエンザは 2024 年まで発生件数も職員患者合わせて年間 9 件とわずかであったが、2025 年は全国的にも発生が増え、当院の職員の発生件数も 30 件に増えたが、患者の発生は 8 名に抑えることができた。コロナ禍以降のユニバーサルマスキングの効果や少なからず感染対策の重要性が意識された影響もあると考える。

ｸﾞﾗﾌ 7



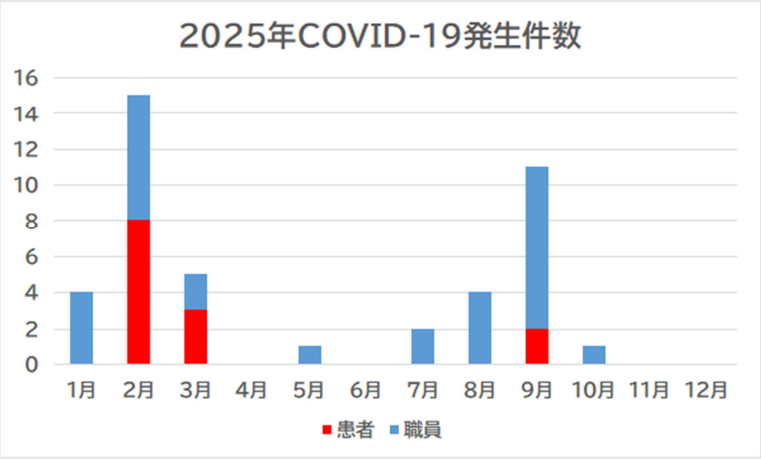
新型コロナウイルス感染症対策について（グラフ８）

年間では、職員が 30 名発症したが、患者の感染は 13 名にとどまった。

スタッフの陽性者発生時の対応も慣れてきて、環境設定や備品の準備などは主体的にできるようになってきている。患者からの陽性者が発生しても、部署内で感染拡大することもなく経過でき、クラスターの発生もなかった。

今後の課題として、5 類に移行して以降の対策の見直しができておらず、対応が過剰になってきている点もあるため、最新の知見に沿った対策の見直しをしていく必要がある。

ｸﾞﾗﾌ 8



近森リハビリテーション病院　看護部　入退院支援

入退院支援担当シニア看護師長　岡部　美枝

1 月から、入院相談業務を看護師 2 名体制で担当。近森病院からの相談と、他の病院からの相談に分けて担当した。病床稼働率の向上をめざし、情報収集と早期の調整に取り組んだ。今までの地域連携パスの会議に加え、近森病院のカンファレンスへの参加や連携会議の参加し、連携の強化をはかることができた。

【地域連携】

相談件数合計:近森：510 件　院外：449 件
　　前年比：近森：－12 件　院外：+46 件
入院件数：近森：334 件　院外：298 件
　　前年比：近森－15 件　院外：+72 件
病床稼働率：84.4%（180 床）94.9%（160 床）
当院からのお断り件数：94 件（－25 件）
急性期病院からのキャンセル件数：158 件（－19 件）

相談件数は増加し法人外からの受け入れ件数が大幅に増加した。重症患者割合をクリアすることが難しい状況が続いたため、ベッドコントロールに難渋することもあった。

毎年、4 月末から夏季の期間は病床稼働率が低下していたが、今年は 7 月まで 95%（160 床）を超えていた。しかし、8～10 月の 3 ヶ月間、病床稼働率が低下。平均でなんとか 90%を超える状況であった。

【外来】

新規患者数：131 名（前年比±0 名）
延べ患者数：2818 名（前年比－264 名）
ボツリヌス治療は 3～4 日/週あり

今後の課題

2026 年度診療報酬改定では実績指数の向上が求められる。これまで以上に、発症から受け入れまでの日数短縮と病床稼働率の向上を目標に情報共有方法を検討していきたい。また、急性期病院とより密に連携する事を目的に病院訪問や会議や研修会への参加などで情報共有を行っていきたい。

重症患者割合については、高次脳機能障害患者と脊髄損傷患者が含まれる予定である。脳卒中や脊髄損傷を多く受け入れてきた当院にとってはプラスの改定であり、この強みをいかし、病床稼働率の向上をめざしていきたい。

近森リハビリテーション病院　看護部　認知症ケア

シニア看護師長　萩原　博

2025 年度 業務実績報告

1. 異動後の業務概要

2025 年 4 月より近森リハビリテーション病院へ異動し、主に「認知症ケア」と「障害者雇用」を担当した。認知症ケアについては、病棟におけるケアの実施状況の把握、困難事例への介入等をおこなうとともに、認知症ケアの質の向上にあわせ身体的拘束の最小化に向けた取り組みを進めた。また、障害者雇用については、対象者の勤務状況や個々の特性を踏まえた支援を行い、本人と職場双方の相互理解を促進しながら、継続的に就労できる環境づくりに取り組んだ。

2. 認知症ケアに関する取り組み

1）認知症ケア加算に関する業務

これまで認知症ケア加算 3 を算定していたが、2025 年 5 月 1 日より認知症ケア加算 2 へ移行した。加算対象者のケア実施状況を把握するとともに、病棟における実践状況を確認し、困難事例への介入や必要に応じたスタッフへの助言を行った。

加算 2 移行後から年度末までの算定件数は 6,553 件、延べ対象者数は 334 名であった。

14 日以内：385 件　うち身体的拘束あり 167 件（43%）

15 日以上：6,168 件　うち身体的拘束あり 2,882 件（47%）

また、認知症ケア加算対象者における身体的拘束の実施状況について、2025 年 7 月より各ユニットの傾向を把握できるデータを作成し、定期的な情報共有を行った。その結果、月ごとの変動は認められるものの、身体的拘束の実施割合は全体として減少傾向を示し、特に「行動制限を実施していない」対象者の割合が増加する傾向がみられた。（図 1）

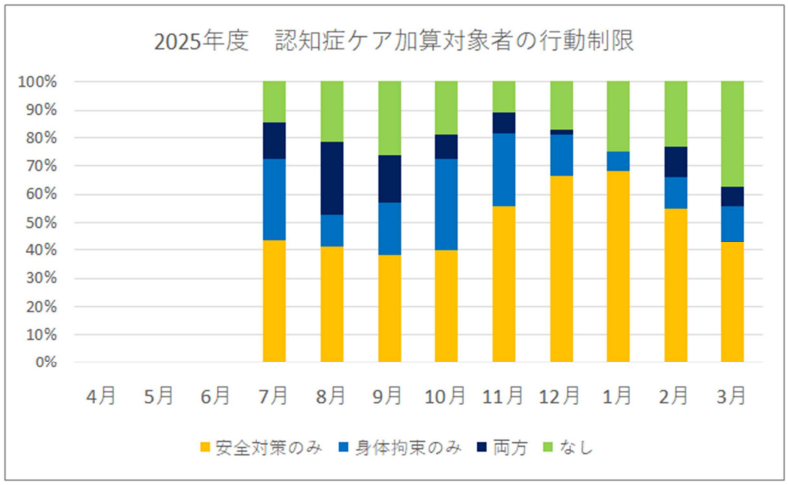


図 1　認知症ケア加算対象者の行動制限

なお、認知症ケア加算対象者に限定せず、加算対象外の患者を含めた院内全体の身体的拘束実施割合についても把握、年度末までの直近 6 か月間の平均は 10.5%であった。

継続的に可視化することで、身体的拘束の実施状況を客観的に捉え、現場でのケアの振り返りにつなげる取り組みを行った。

2）認知症ケア研修の実施

院内における認知症ケアの知識・技術の向上を目的として、認知症ケア研修を実施した。研修内容は、「認知症ケアの変遷」「認知症の基礎知識」「パーソン・センタード・ケア」「脳活性化リハ５原則」を中心とし、認知症を疾患として理解するだけでなく、本人の視点に立ったケアの重要性についてスタッフへの周知を図った。

3）認知症ケアワーキンググループの立ち上げ

院内の認知症ケアを部署単位ではなく、組織全体として継続的に発展させることを目的として、認知症ケアワーキンググループを立ち上げた。

部署やユニットの垣根を越えて協働し、それぞれの強みや実践を共有することで、認知症のある患者の生活を支える日常生活支援の充実を目指した。また、各ユニットが互いの実践から学び合う場を設けることで、院内の認知症ケアを継続的に改善していくための仕組みづくりに取り組んだ。

4）認知症ケア加算１算定開始に向けた準備

認知症ケア加算１の算定開始に向け、委員会の立ち上げ、認知症ケアチームの編成、規約・指針等の作成など、必要な体制整備を進めた。

今後の具体的な運用を見据え、認知症ケアチームが現場と連携しながら、より実践的な支援を行える体制づくりを進めていく必要がある。

3. 障害者雇用に関する取り組み

障害者雇用枠の対象者８名（精神障害６名、身体障害２名）に対し、安定した就労の継続を目的とした支援を行った。

具体的には、本人との相互理解を深めるための面接、定期的な勤務状況の把握、個々の特性や勤務状況に応じた業務内容の調整など、合理的配慮を踏まえた支援を実施した。また、必要に応じて個別対応を行うとともに、外部支援機関とも連携し、本人を取り巻く支援体制の充実を図った。さらに、障害のある職員と協働するスタッフの疾患・障害特性への理解を促進するため、レクチャーや情報交換を行う場として毎月の話し合いの機会を設けた。本人への支援だけでなく、職場全体の理解を深めることで、障害の有無にかかわらず働きやすい環境づくりを進めた。

4. 今後の課題と取り組み

認知症ケアについては、今後、認知症ケア加算１の具体的な運用を確立するとともに、委員会や認知症ケアチームの役割を明確にし、現場とのつながりをより強化していく必要がある。また、アソシエイトチームとして、単に困難事例に対応するだけではなく、現場スタッフに寄り添いながら、各部署が主体的に認知症ケアに取り組めるよう支援することが重

要である。認知症ケアワーキンググループについては、活動を開始し少しずつ前進しているものの、課題の抽出や活動計画の具体化については、さらなる改善が必要である。限られた開催時間を有効に活用するため、活動目的や年間計画を明確にし、より効果的な運営方法を検討していく。障害者雇用についても、個々の職員の状況に応じた合理的配慮を継続するとともに、本人と周囲のスタッフ双方が安心して働ける環境づくりを進めていく。
今後も、認知症のある患者や障害のある職員を「支援の対象」として捉えるだけではなく、それぞれの強みや能力を活かしながら、本人を中心とした支援を実践することを基本として、院内全体のケア・就労支援の質の向上に取り組んでいきたい。

近森リハビリテーション病院　看護部　教育

教育担当シニア看護師長　中村　里江

当院看護部の教育委員会活動は当院内に設置されている下記の 3 つの委員会と法人看護部教育代表者会の活動により行われている

1．近森リハビリテーション病院新人教育担担当者会
2．近森リハビリテーション病院看護師教育委員会
3．近森リハビリテーション病院介護福祉士教育委員会
4．近森会グループ看護部教育代表者会

当院内で教育委員会活動を行っている１～3 について実績と評価を述べる。

１．近森リハビリテーション病院新人教育担当者会活動

当院の新人看護師、異動者、中途採用者の育成と組織への定着を高めることを目的に、新人看護師だけでなく、回リハ病棟 1 年目の異動者・中途採用者も部署全体で支援する活動を行っている。また、２～３年目看護師にも継続的に支援を行っている。

１）新人看護師の教育支援

（1）活動実績

2025 年度は、新人看護師 1 名と法人内からの異動者が 1 名に対し教育支援を行った。また、レベルⅠ未到達または到達後間もない２～３年目看護師が 8 名いたため、厚労省ガイドラインで示された看護技術の習得するための 0JT を行った。

①ラダーレベルⅠ集合研修（ジェネラリスト教育）

新卒新採用の新人看護師がレベルⅠ到達をめざすための集合研修である。これは近森会グループ教育代表者会が企画・運営しており、当院の新人看護師 1 名が受講した。

②回復期リハビリテーション看護新人研修

このプログラムは、新人看護師を含め回復期リハビリテーション病棟入職 1 年目のスタッフを対象とし、業務やケアを実践する上で必要な回復期リハビリテーション看護の基本的知識、技術を学ぶプログラムである。講義担当は回復期リハビリテーション病棟協会から認定を受けた「回復期リハビリテーション看護師」が主に担っている。

2025 年度は、このプログラムに新人看護師、既卒中途採用看護師、法人内からの異動看護師、合計 10 名が参加した。

①、②の研修実績を表 1 に示す。

表 1　2025 年度　レベルⅠ新人看護師研修、回復期リハ看護新人研修　実績一覧

	開催月	テーマ	担当
新人看護師研修（近森会看護部ラダーレ	4 月	入職時新人研修	新人教育担当者
	4 月	点滴静脈注射技術研修	新人教育担当者・テルモ（株）
	5 月	多重課題・タイムマネジメント	教育代表者会

ベルⅠ研修）	5 月	急変時の対応①（BLS）	新人教育担当者
	6 月	社会人基礎力・倫理・夜勤について	教育代表者　専門看護師
	6 月	検査・薬剤・医療ガス・褥瘡	各部門担当者　認定看護師
	7 月	リフレッシュ研修	教育代表者
	7 月	急変時の対応②（ハートコール）	新人教育担当者
	10 月	看護過程・ケースレポートの書き方	教育代表者
	12 月	医療安全・抗癌剤・身体拘束	認定看護師
	1 月	点滴静脈注射技術評価研修	新人教育担当者
	2 月	振り返りの会	教育代表者
	3 月	ケースレポート提出	新人教育担当者
新人看護師研修（回復期リハビリテーション看護新人師研修）	4 月	近森リハビリテーション病院新入職員研修	近森リハビリテーション病院教育研修委員会
	4 月	脳卒中のフィジカルアセスメント・検温	看護主任
	4 月	口腔ケア	歯科衛生士
	4 月	吸引・酸素療法	新人教育担当者
	4 月	嚥下障害の看護・間欠的経管栄養法	看護師
	5 月	回復期リハ病棟における排尿ケア	新人教育担当者
	5 月	回復期リハ病棟における排便のケア	回リハ看護師（認定） 介護福祉士
	6 月	回復期リハ病棟の基本的ケア①～⑤	看護師長
	7 月	回リハ病棟における脳卒中患者の看護	看護主任
	8 月	高次脳機能障害の看護	回リハ看護師（認定）
	8 月	回復期リハ病棟の基本的ケア⑥～⑩	看護師長
	9 月	日常生活機能評価研修	看護主任
	9 月	高次脳機能障害の看護	回リハ看護師（認定）
	10 月	回リハ病棟における看護過程	回リハ看護師（認定）
	11 月	うつの看護	認定看護師
	12 月	急変に至る兆候への看護	新人教育担当者

（2）評価と課題

レベルⅠ研修は、近森病院、オルソリハビリテーション病院と合同で開催されており、当院の新人看護師は全てのプログラムに参加することができた。新人所属部署の新人教育担当者・実地指導者が 0JT の計画実施評価を行い、年度末にはレベルⅠ到達要件の技術を習得することができた。当院配属の新人看護師数が少ないため、同期同士の交流を図る意味でも法人全体の集合研修に定期的参加することはモチベーション維持にもつながっている。

回復期リハビリテーション新人看護師研修には異動者、中途採用者が参加し、現場の回リハ看護の実践に根拠を与える研修として好評であった。この数年、外部環境の変化により当院の新規入院患者に占める整形外科疾患の患者数が増加しているため、今後研修プログラムの見直しも

行っていく。

2）2 年目～3 年目看護師の教育支援

（1）活動実績

2023 年度より、「2～3 年目看護師技術チェックリスト」を導入し、運用している。

今年度も昨年度同様の手順でチェックリストを使用し、2 年目看護師の OJT を行った。

（2）評価と課題

導入以降、以下のような①②の課題が明らかになっていたが、運用面では特に支障がなく、現場での支援に活用できた。実際に活用した指導者と 2 年目看護師からの評価をまだ得ていないため、評価とチェックリストの項目の見直しが今後の課題である。

① 技術項目の中には、当院では経験する機会がほとんどないかあるいは一度経験しても次に経験するまでに期間が空くことで、1 年目に到達していた技術項目でも、現在は自立して実施できない技術項目が見られた。

② チェック表はジェネラリストの一般的な技術項目で構成されているため、当院で 2 年目以降に身に付けてほしい回リハ看護技術について評価できない仕様となっている。

2．近森リハビリテーション病院看護師教育委員会活動

（1）活動実績

2024 年度に引き続き、教育委員が 4 つのテーマで集合研修を企画運営評価した。(表 2)

＜2025 年度　リハ病院看護師教育委員会　勉強会テーマ＞

①事例検討会

②急変時の対応技術

③急変に至る兆候とその対応（脳卒中再発の兆候と観察）

④抑うつの看護

表 2　2025 年度看護師教育委員会勉強会

月　日	テーマ
①事例検討会	
8 月 29 日	失語症患者の思いを知るために
9 月 19 日	せん妄患者への対応やケア方法を考える
10 月 17 日	車椅子移動から T 字杖歩行への移行を援助する際に体験した困難感
11 月 21 日	転倒骨折で再入院を繰り返す患者への退院後の生活指導について
②急変時の対応技術	
11 月 27 日	急変対応について－急変患者発見から搬送まで
12 月 8 日	急変対応について－急変患者発見から搬送まで－
③急変に至る兆候と対応	
1 月 29 日	脳卒中再発の兆候とその観察
④抑うつの看護	
2 月 20 日	抑うつ・認知症の精神症状に対するケア－当院で使用される薬剤の知識を中心に－

（2）評価と課題

①事例検討会

2023 年度より事例検討会を行っている。今年度より主テーマを「退院支援」と定めずに、どのようなテーマでも部署から事例を募ることとした。各病棟より事例を提供し、計 4 回開催することができた。教育委員が事例提供者を選出し当日までの準備のサポート、検討会当日の運営、実施後のフォローを主体的に行い、定着しつつある。テーマに関連した領域のエキスパートに参加を求め、今年度は認定看護師や薬剤師、介護福祉士などの職種から参加があった。専門性の高い解説、アドバイスが出ることにより、参加者は知識や気づきを得ていた。異なる病棟スタッフからの意見を聞くことにより、視野が広がったのと声も聞かれる。課題は参加者が少ないことであるが、参加者の満足度は高い。教育委員からの研修評価として、次年度以降は参加者がよりコミットできるよう、フロアー別に開催した方がよいとの意見が出た。

②急変時の対応

昨年度同様に受講者が e ラーニングで事前学習をしたうえでシミュレーション研修を受講する形態とした。

今年度は、研修開催前に、現場で患者の急変エピソードがあったことから、受講希望者が増え、他職種からも参加希望があった。シミュレーションブースを 3 つ用意してもなお、全員が体験できず、見学者として参加してもらった。スタッフのニーズに応えるために 2 度開催した。3 回目を開催することを検討したが、主催側のマンパワー不足や機材の調達に負担が大きく、2 回で断念した。受講者には医師も加わり、指導的役割を取ってもらうなど、これまでになく緊張感ある研修を行うことができた。

課題としてはやはり開催数を増やすこと、他職種協働で開催することである。また看護師の基本的な知識技術不足も明らかになった。本来身に付けておくべき BLS 技術が不確かなスタッフが散見された。次年度も課題解決を図りながら継続していく。

③急変に至る兆候への対応（脳卒中の再発の兆候と観察）

講師は昨年と同じく近森病院脳卒中認定看護師に依頼した。当院で遭遇する可能性が高い患者の異変に気づき、アセスメントと必要なケアを行い、SBAR で報告ができることを目的として企画している。今年度の企画の工夫点として、研修効果を高めるために受講者に事前課題を提示した。受講者は、脳卒中の病態生理やフィジカルアセスメントの知識を e ラーニングで事前学習し、研修に臨んだ。またロールプレイでは、看護師が患者の異常を察知する場面から開始し、それ以降の患者情報は、看護師役の観察・情報収集・アセスメントの結果必要とされる情報に対応して情報提供していく形で展開した。つまり受講者が臨床推論を行いながら患者への対応やケアを行う形を取り入れた。

受講者は前年度より増加し、受講者層は 6 年目以下の若手看護師であった。人数が増えたため２ブース設置してロールプレイを行った。受講者の反応は、全員が e ラーニングで事前学習をしているわけではなかったが、「知識の再確認ができ、理解が深まった」との反応があった。ロールプレイでは「異常発見時にまずは何をするべきかを体験できて勉強になった」と、満足度も高かった。また受講者の中には、「脳卒中の再発以外も念頭において観察・アセスメントするべきであった」と、「実際の現場で対応する時には脳卒中再発以外の可能性も想定して対応するべきだ」と、発展的に学んだ受講者もいた。

④抑うつの看護

教育委員が事前に各病棟スタッフからの学習ニーズを把握し、講師に講義内容に反映してもらうよう教育委員が講師と入念に事前打ち合わせを行い企画した。うつの看護の基本的知識だけでなく各病棟から出された事例や場面の解釈や看護のポイントをわかりやすく解説してもらい、受講者からの反応は好評であった。患者への看護に心残りを抱えているスタッフが患者の状態を改めて理解することで、また違う気持ちや価値観に気付く機会となった。

【全体的な評価と課題】

研修内容的にはニーズに合った集合研修を運営することができたが、どの研修も時間外開催であり勤務シフトが影響して相変わらず受講者が少なく、教育委員のマンパワーの問題から開催頻度も増やせない現状がある。スタッフの動機づけとｅラーニングの活用や外部研修の活用など、学習環境を整える工夫も行っていく。

３．近森リハビリテーション病院介護福祉士教育委員会活動

（１）活動実績

①新人介護福祉士教育

2025 年度は、新卒新採用の介護福祉士 1 名の入職があった。新人介護福祉士には所属部署で実地指導者を配置し、介護福祉士教育委員会が作成している、「新人介護福祉士年間教育計画」「新人介護福祉士評価表」「新人介護福祉士評価表の運用基準」を活用して教育支援を行った。Off-JT では「回復期リハビリテーション看護新人研修」に参加した。年度末に実施した「振り返りの会」では、卒業校の教員からビデオメッセージをいただくなど、1 年間の成長を確認できる会となった。また 1 年間の集大成として実地指導者の支援を受けながらケースレポート作成に取り組むことができた。

②集合研修

前年度の評価と現場の教育ニーズを踏まえ、介護福祉士研修計画を立案し、実施している。今年度の研修開催実績は表 3 に示す。

③e ラーニングの活用

前年度より介護福祉士向けの e-ラーニングシステムを導入している。業務時間外の集合研修には参加が難しいスタッフが多く、集合研修への参加率が低迷していたことから、自己研鑽の機会を広げること、また集合研修の学習効果を高めること、教育委員や講師の負担軽減等をねらいとしている。受講率は前年度よりも上がったが、受講者はさほど増えてはおらず受講者の偏りが見られた。

③その他

これまでの教育委員会の活動実績と評価について振り返りを行い、学会発表を行うことができた（業績資料参照）。

（２）評価と課題

①新人介護福祉士教育

回復期リハビリテーション病棟において介護福祉士としての専門性を発揮できる人材育成を目標に、教育計画に則った教育支援を部署全体で行うことができた。今後も 1 人 1 人の成長を支

援する育成計画や体制の充実を図っていきたい。

②集合研修および③e-ラーニングの活用について

事例検討会は、事例提供するスタッフ層も幅が広がり、介護福祉士の中で定着している。参加人数は少ないが、今後も継続していく。そのほかの集合研修については、前年度末に計画した内容に加え、学会参加報告会など話題性の高いものを追加開催し、好評を得ている。e-ラーニングを事前学習に活用した集合研修も試みており、今後も研修効果を高める企画を検討していく。参加人数はその日の勤務者内に限られている現状からｅラーニングを活用した研修企画をさらに検討していく予定である。また、スタッフ全体の介護福祉士の専門性を高める教育機会を確保していくために、教育プログラムに基づいた集合研修を業務として位置づけることを教育委員会として検討していく。

表３　介護福祉士教育委員会勉強会

月　日	テーマ
4 月 22 日	介護福祉士の専門性について
5 月 27 日	事例検討会
6 月 24 日	ボディメカニクスについて
7 月 22 日	事例検討会
10 月 28 日	事例検討会
12 月 23 日	リハケア合同研究大会 in 大阪　報告会
2 月 23 日	認知症のある患者とのコミュニケーション
3 月 24 日	新人介護福祉士　振り返りの会

【資料】2025 年（1 月～12 月）　学術発表・講演会等の活動

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
回復期リハビリテーション病棟における急変時対応能力の向上を目指した取り組み～自己学習用教材（動画）作成の試み～	遠藤恵、和田幸恵、中屋吉博	回復期リハビリテーション病棟協会第 45 回研究大会 in 札幌	2025/2/21-2/22
自宅退院に不安を抱える高齢患者と家族への退院支援	立野雄也	回復期リハビリテーション病棟協会第 45 回研究大会 in 札幌	2025/2/21-2/22
重度頚髄損傷患者の退院支援とチーム支援	岡部美枝	回復期リハビリテーション病棟協会第 45 回研究大会 in 札幌	2025/2/21-2/22
近森会看護部教育委員会活動報告（第 1 報）ラダーレベルⅡ「看護過程研修」活動報告	友草杏理、上田秀彰、上岡冬哉、吉本典子、中村里江	高知県看護協会看護研究学会	2025/2/22
近森会看護部教育委員会活動報告（第 2 報）ラダーレベルⅡ「看護過程研修」の成果～自部署でのディスカッションを導入したことによる受講者の反応より～	中村里江、友草杏理、上田秀彰、上岡冬哉、吉本典子	高知県看護協会看護研究学会	2025/2/22

当院における介護福祉士教育活動の取り組みと今後の課題～学習ニーズに関してのアンケートを結果を基にした教育・育成活動～	西川智恵子、平田翼、明坂洋介	回復期リハビリテーション病棟協会第 45 回研究大会 in 札幌	2025/2/22
夜勤チームの協働の在り方～寄り添うバトンリレーの事例を通して	松永智香	高知県看護協会看護研究学会	2025/2/22
それぞれの立場から看た就労支援の課題～看護チームでできること～	萩原博・堀尾恵・山中俊典・武田直子・松永智香	日本精神科看護協会学術集会 in 兵庫	2025/6/7
「A 病棟における、認知関連行動アセスメント（CBA）の取り組み」	上岡冬哉	臨床脳神経外科学会	2025/7/19-7/20
当院における地域連携の現状と課題	岡部美枝	臨床脳神経外科学会	2025/7/19-7/20
回復期リハビリテーション病院における看護 DX の取組み	永野智恵	日本看護管理学会学術集会	2025/8/22-8/23
回復期リハビリテーション病棟で働く外国人介護職へのやりがいを見出す	松永智香	日本看護管理学会学術集会	2025/8/22-8/23
看護の専門性を意識して活動するために現象を振り返る必要性について	松永智香	日本看護管理学会学術集会	2025/8/22-8/23
新任看護師長のキャリアトランスジションの支援について考える	松永智香 近森病院附属看護学校　平瀬節子 笹貫訪問看護ステーション愛の街　中園明子	日本看護管理学会学術集会	2025/8/22-8/23
「セルフケア能力に着目した内服管理方法決定のプロセス～依存傾向のある患者の退院支援～」	上岡冬哉	日本看護学会学術集会	2025/9/12-9/14
医療政策課と看護協会と認定看護管理者がコラボする課題解決講座～官・看・管（カン・カン・カン）管理者のチームビルディング	松永智香 高知県医療政策課チーフ　久保田富女 横浜病院看護部長　辻野美樹 大井田病院看護部長　横山理恵	日本看護学会学術集会	2025/9/12-9/14
「Execl と生成 AI を活用した面会予約表作成の自動化～VBA 導入による業務効率化の実践～」	上岡冬哉	近森会グループ生成 AI 活用チャレンジ	2025/10/4
NotebookLM を活用した「日常生活機能評価」「FIM」の採点支援・学習ツールの作成について	中屋吉博	近森会グループ生成 AI 活用チャレンジ	2025/10/4
『回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護師が実践する入退院支援』	岡部美枝	日本リハビリテーション看護学会　第 37 回学術大会	2025/11/1-11/2
回復期リハビリテーション病棟における夜勤看護チームの協働の在り方～大切な看護の概念を意識して働く～	松永智香	日本リハビリテーション看護学会　第 37 回学術大会	2025/11/1-11/2
回復期リハビリテーション病院における歯科衛生士の役割と今後の課題について	植田彩子、濵田麻伊、中岡朋世、 森本美穂、川村万裕美	リハビリテーション・ケア合同研究大会大阪 2025	2025/11/21-11/22
当院における介護福祉士教育活動の取り組みと今後の課題～スタッフの学習ニードに合わせた研修方法の検討・実施～	西川智恵子、平田　翼	リハビリテーション・ケア合同研究大会大阪 2025	2025/11/21-11/22

講演・外部講師

演題	演者	学会・主催	開催日
それぞれの立場からみた就労支援の課題・看護チームでできること（雇用側の視点から）	萩原　博	日本精神科看護学術集会交流セミナー	2025/6/6
セカンドレベル	松永智香	大阪府看護協会認定看護管理者教育課程	2025/6/3,9/26

セカンドレベル	松永智香	高知県看護協会認定看護管理者教育課程	2025/7/16-7/17
セカンドレベル ファシリテーター	永野智恵	高知県看護協会認定看護管理者教育課程	2025/7/17
共存共栄・共生・共創	松永智香	日本認定看護管理者会研修会	2025/7/26
組織分析 看護管理者支援事業	松永智香	高知県医療政策課 高知県看護協会	2025/8/5
看護介護 10 項目	岡本真由美	一般社団法人全国回復期リハビリテーション病棟協会	2025/8/21
看護マネジメント論	松永智香	日本精神科看護協会	2025/10/5
身体拘束最小化にむけた取り組み	萩原　博	だいいちリハビリテーション病院	2025/10/11
ファーストレベル	松永智香	広島大学病院キャリア開発センター認定看護管理者教育課程	2025/10/11
サードレベル	松永智香	日本赤十字社幹部看護師研修センター	2025/10/24
看護管理者研修	松永智香	日本精神科看護協会	2025/10/21-10/22

論文発表・著書

タイトル	執筆者	掲載誌 出版社	巻、号、ページ
回復期リハビリテーション病棟の質向上　パフォーマンスを高めるための取り組み「脳卒中再発予防～集合研修にロールプレイを導入、看護の観察・対応力向上狙う	畠中麻衣	回復期リハビリテーション「機関誌」	vol.23no.4　P.10-11 2025.1
特集；中途採用看護職員の確保 中途採用面接時に確認した目標の共有を教育担当シニア師長につなぐ	松永智香、中村里江	看護 日本看護協会出版会	vol77no４、2025.3
特集キャリア採用者、ベテランスタッフ、プラチナナースの経験を活かす 自らもその立場に至って分かったプラチナナースの活かし方 それぞれの強みに着目	松永智香	月刊ナースマネージャー 日総研出版	vol27no6、2025.8

シンポジスト・座長

演題・テーマ	担当者名	主催	役割	開催日
自由に発想しよう。未来の精神科看護	松永智香	第 50 回日本精神科看護学術集会 in 兵庫	シンポジスト	2025/6/7
回復期リハビリテーション認定看護師 認定コース	岡本真由美	一般社団法人 全国回復期リハビリテーション病棟協会	研修運営担当	2025/8/21-8/23
回復期リハビリテーション認定看護師 認定コース	岡本真由美	一般社団法人 全国回復期リハビリテーション病棟協会	司会	2025/12/19

院外活動（外部委員・役員等）

団体名	委員・役員	氏名	期間
一般社団法人高知県歯科衛生士会	監事	植田彩子	2023/6-
高知県リハビリテーション研究会	理事	植田彩子	2023/8-
一般社団法人回復期リハリビテーション	看護委員会委員	岡本真由美	2021/5-

病棟協会			
高知県看護協会	倫理審査委員	永野智恵	2024/4-
特定行為研修受講選考	面接官	永野智恵	2025/4/4-
高知女子大学看護学会	学会誌査読委員	中村里江	2015/4-
高知県看護協会	看護管理者支援事業委員会	松永智香	2024/4-
中央西保健所	在宅医療を支援する GW	松永智香	2024/4-
日本精神科看護協会	学術部会委員	松永智香	2021/4-
日本精神科看護協会	教育認定部会委員	松永智香	2021/4-
日本精神科看護協会	特定行為研修制度部会委員	松永智香	2021/4-
高知大学医学部附属病院	臨床研修審査委員会	松永智香	2022/4-
高知大学医学部附属病院	認定再生医療等委員会	松永智香	2022/4-
高知大学医学部附属病院	倫理委員会	松永智香	2022/4-
高知大学医学部附属病院	ヒト細胞 ES 倫理委員会	松永智香	2022/4-
日本家族看護学会	運営委員	松永智香	2025/4-

学校等への非常勤講師

学校名	講師	講義名
近森病院附属看護学校	岡部美枝	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	遠藤恵	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	畠中麻衣	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	南和芳	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	中村里江	リハビリテーション概論・演習
高知学園短期大学　歯科衛生学科 1 年次生	植田彩子	特別講義　(2025／7／23 10：20～11：50) 現場での業務の展開
近森病院附属看護学校	岡部美枝	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	遠藤恵	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	畠中麻衣	リハビリテーション概論・演習
近森病院附属看護学校	南和芳	リハビリテーション概論・演習

資格取得・認定コースの修了

資格名、コース名	氏名	取得日もしくは修了年月日
回復期リハビリテーション病棟協会 回復期リハビリテーション看護師	岩松美波	2025/1/1
認定看護管理者教育課程　セカンドレベル	和田絵美	2025/11/7
認定看護管理者教育課程　セカンドレベル	中村里江	2025/11/7
日本看護協会医療安全管理者研修	梅木まき	2025/10/24
保健師助産師看護師実習指導者講習会	川村加恵	2025/12/25
保健師助産師看護師実習指導者講習会	立野雄也	2025/12/25
保健師助産師看護師実習指導者講習会	須賀麻弥	2025/12/25
保健師助産師看護師実習指導者講習会	中谷美乃里	2025/12/25
特定行為研修修了	岡本真由美	202//5/29
感染管理認定看護師	岡本真由美	2025/12/1
日本咀嚼学会健康咀嚼指導士	植田彩子	2025/9/13
日本咀嚼学会健康咀嚼指導士	川村万裕美	2025/9/13
デジタル中核人材養成研修	中屋吉博	2025/10-2025/3